

● 第7回国際シンポジウム「帝国から地域大国へ，国家と非国家の間で」予告

本新学術領域研究の英語での最後の大会となる第7回国際シンポジウム “From Empires to Regional Powers, between States and Non-states” (帝国から地域大国へ，国家と非国家の間で) を，2012年7月4～6日に開催します。第2班(内政)，第5班(社会)の協力で予定されている今回のプログラムは，次の通りです。当シンポジウムへの参加を希望される方は，ウェブページ上の登録フォームから登録してください。[松里]
[<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/sympo/12summer/2012summer-j.html>]

From Empires to Regional Powers, between States and Non-states

場所：北海道大学スラブ研究センター 4階大会議室

7月4日(水)

International Workshop for Junior Scholars

Keiji Sato, Hokkaido University

Dareg Zabarah, Humboldt University

“Autocephaly: A Delayed Transition from Empire to National State”

Nikola Mirilovic, University of Central Florida

Commemorative Lecture

Theodore Weeks, Southern Illinois University

“City, Cultures, Empire: Vilnius in the Russian Empire and USSR”

7月5日(木)

Opening Speeches

Session I Empires and Political Geography

司会：**Ozan Arslan**, Izmir University of Economics

報告者：Empires and Seas/Oceans: **Charles King**, Georgetown University

“Can Seas Have Histories?”

Empires and Steppe: **Jin Noda**, Waseda University

Empires and Mountains: **Moshe Gammer**, Tel Aviv University

“Mountains of Copper, Men of Steel: Russia confronting the Mountains”

Session II Religious Politics and Transnationalism

司会 : **Kimitaka Matsuzato**, Hokkaido University

報告者 : **Norihiro Naganawa**, Hokkaido University

“Drawing Russia as a Muslim Power? The Hajj from Tatarstan and
Daghestan in the Post-Soviet Era”

Sana Haroon, Institute of Business Administration, Karachi, Pakistan

“Muslim Transnationalism in the Twentieth Century: India, Pakistan and
Afghanistan”

Dumitru Cotelea, Babes-Bolyai University, Romania

“The Issue of the Russian Canonical Territory between Ecclesiology and
Geopolitics”

討論者 : **So Yamane**, Osaka University

Session III Conflicts Spanning the Regional Powers' Peripheries and “Near Abroad”

司会 : **Keiji Sato**, Hokkaido University

報告者 : the Caucasus: **Arsene Saparov**, Michigan University

“Arbitrary Borders? The Bolsheviks and the Making of Borders in the
South Caucasus in the 1920s”

Xinjiang: **David Brophy**, Australian National University

“Russian Muslim Writing on Xinjiang in the Pre-revolutionary Period”

India: **Kazuya Nakamizo**, Kyoto University

“Peripheries Creating the 'Indian' Nation: The Border and Muslim
Problems Revisited”

討論者 : **Keiichi Kubo**, Waseda University

7月6日(金)

Session IV Competitive Authoritarianism: Theoretical Challenges

報告者 : **Barbara Junisbai**, Pitzer College

“Unpacking the 'Competition': Variation in Political Opposition under
Competitive (and Not-So-Competitive) Post-Soviet Authoritarianism”

Ayame Suzuki, Fukuoka Women's University

“Strong Institutions and Weak Incumbents: Asian Competitive Authoritarianism as an Exception?”

Atsushi Ogushi, Osaka University of Economics and Law

“Has Regional Politics Lost Meaning Under competitive Authoritarianism?: Russia and Ukraine”

Fumiki Tahara, Tokyo University

“Are There Differences between Competitive Authoritarianism and Democratic Clientelism? Questions from the Community Level”

討論者 : **Atsushi Ishida**, Tokyo University

Session V Regime Change or Regime Dynamics?: A Comparative Study of Backlashes

司会 : **Yang Cheng**, East China Normal University

報告者 : Georgia: **Cory Welt**, George Washington University

“Institutional Reform and Single-Party Rule in Georgia”

Ukraine: **Olexy Haran**, Kievo-Mohyla Academy University

“From the Orange Revolution to Russian Model of 'Stability'?”

Kyrgyzstan: **Tomohiko Uyama**, Hokkaido University

“Party Politics and Premier-Presidentialism in Kyrgyzstan after the Second Revolution: Order in Disorder”

討論者 : **Hirotake Maeda**, Tokyo Metropolitan University

Session VI Authoritarian Leaders and Discourse of Regional Powers

報告者 : **Tang Liang**, Waseda University

“One Party System's Strategy for Survival: Promotion and Screening of Political Elites in China”

Gulnaz Sharafutdinova, Miami University

“The Power of Ideas in Russia's Real Politics”

※ プログラムには、すでに確定済みのものだけ載せています。今後、随時補充して、

スラブ研究センターのウェブサイト上で公開していきます。

※※ 7月9日(月)には関連企画として、東京(早稲田大学)と大阪(大学コンソーシアム大阪)でシンポジウムのパネリストを招いて研究会を行います。詳細については新学術領域研究のウェブサイトをご確認ください。



● 第6回全体集会「最終成果出版の準備報告会」予告

国際シンポジウムの翌日に、下記の形で全体集会を開きます。今回も、来年早々から始まるミネルヴァ書房からのシリーズ本の出版を念頭に置いて、各巻の原稿の報告会を行います。今回は、第1班、第4班、第6班の担当される巻のなかからそれぞれ1つの章について報告してもらいます。実際にどの章が報告されるかについては、後日、ホームページ上に掲載されるプログラムでお知らせします。執筆者の皆様は、ご出席を予定下さるようお願いいたします。なお、本領域研究のメンバーおよび執筆者の方については、この全体集会に参加するための旅費は、国際シンポジウムや各班の研究会などを含めて、総括班から支給しますので、事務局(rp@slav.hokudai.ac.jp)までご連絡ください。[田畑]

新学術領域第6回全体集会「最終成果出版の準備報告会」

日時：7月7日(土)午後13:30~18:30

場所：スラブ研究センター大会議室(403号室)

プログラム

13:30~15:00：第4巻(第4班)

15:15~16:45：第3巻(第1班)

17:00~18:30：第6巻(第6班)

19:15~：懇親会



● 「ユーラシアをめぐる日印対話Ⅱ：中国との関係に向けて」開かれる

スラブ研究センターでは2月27日に、スラブ研究センターと新学術領域研究の主催、グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」の共催で、「ユーラシアをめぐる日印対

話Ⅱ：中国との関係にむけて」が行われました。本会議は、2011年3月にスラブ研究センターで開かれたフォーラム「ユーラシアをめぐる日印対話」の続編にあたるもので、ロシアや中央アジアを含むユーラシア諸国についての様々な諸問題を、さらに深く掘り下げて議論することを目的として開かれました。会合では、日印のみならず中国、シンガポールからユーラシアの政治・国際関係・経済を専門とする研究者を迎え、ユーラシアにおける各国間関係の現状と将来のあり方について、率直な議論が行われました。会議当日のプログラムは以下の通りです。[岩下]

ユーラシアをめぐる日印対話Ⅱ：中国との関係に向けて

セッション1 国際関係と政治的連携

司会： 石井明（東京大学）

報告： ナンダン・ウンニクリシュナン（インド・オブザーバーリサーチ基金）

K.ワリクー（ジャワハルラル・ネルー大学）

サンジェイ・パンデイ（ジャワハルラル・ネルー大学）

ルクマニ・グプタ（インド防衛研究所）

楊成（華東師範大学）

中居良文（学習院大学）

吉田修（広島大学）

兵頭慎治（防衛研究所）

セッション2 経済と地域秩序

司会： 安達祐子（上智大学）

報告： アルン・モハンティ（ジャワハルラル・ネルー大学，ユーラシア財団）

C.P. チャンドラセカル（ジャワハルラル・ネルー大学）

李澤建（東京大学ものづくり経営研究センター）

クリストファー・レン（安全保障開発政策研究所，スウェーデン）

田畑伸一郎（スラブ研究センター）

上垣彰（西南学院大学）

星野真（スラブ研究センター）

セッション3 戦略的展望と今後のダイナミズム（ラウンドテーブル）

司会： 岩下明裕（スラブ研究センター）

報告： モニカ・チャンソリア（ランド戦争研究センター）

H. S. プラバカル（ジャワハルラル・ネルー大学）

趙干城（上海国際問題研究院）

小川伸一（立命館アジア太平洋大学）

長尾賢（学習院大学）



● 新学術領域研究会「生活空間、場の記憶、ジェンダー、探偵小説—ユーラシア比較文化の試み」開かれる

3月3日、4日に新学術領域研究4班と6班の共催による研究会がスラブ研究センターで開催されました。伝統医療、記念碑、フォークロアという生活空間をテーマにした第1セッション、西欧に由来する探偵小説ジャンルの受容を比較する第2セッション、世界遺産をめぐる文化政治を扱った第3セッション、社会・文化における女性性の問題を議論した第5セッションでは、新学術のプロジェクトが始まって以来これまでに培ってきたネットワークを活用して、ロシア、中国、インドの専門家をそろえることができました。その他、基盤研究B「近代以降のロシア文化における「南方」表象の総合的研究」（代表：中村唯史）との共催による第4セッション、第6班のこれまでの成果を報告する最終セッションが行われました。50名近い出席者が集まり、活発な議論が展開されました。当日のプログラムは、以下の通りです。[越野]

生活空間、場の記憶、ジェンダー、探偵小説—ユーラシア比較文化の試み

日時：2012年3月3日（土）・4日（日）

場所：北海道大学・スラブ研究センター大会議室

3月3日（土）

10:20-10:30 開会挨拶

10:30-12:30 第1セッション 空間・生活・まなざし

岡光信子（東北大学）「インドの伝統医療と現代：タミルナードゥ州のナートゥウ・マルンドゥ（Nattu Maruntu, Local Medicine）を中心に」

高山陽子（亜細亜大学）「中国の革命聖地」

塚崎今日子（札幌大学）「極北へのまなざし：北極探検とソヴィエトの「新しいフォーク
ロア」」

司会：後藤正憲（SRC）

コメンテーター：村田雄二郎（東京大）

13:30-15:30 第2セッション 探偵小説の比較研究

波多野健（ミステリ評論家）「インドにおける推理小説の受容と変容：二重構造は解消に
向かうのか？」

藤井得弘（北海道大学）「清末民初探偵小説における伝統小説との連続と断絶」

久野康彦（東京大学）「ロシアの探偵小説の誕生と発展：18世紀末から1920年代まで」

司会：越野剛（SRC）

コメンテーター：諸岡卓真（北海道大学）・大森滋樹（ミステリ評論家）

15:45-17:45 第3セッション 世界遺産は誰のもの？—ポリティクス・記憶・表象

小林宏至（首都大学東京）「中国における客家文化と表象のポリティクス：福建土楼の世
界文化遺産登録をめぐって」

前島訓子（名古屋大学）「インドにおける世界遺産と「仏教聖地」：インド・ブッダガヤ
を例に」

高橋沙奈美（筑波大学）「ロシアにおける世界遺産ブランドと宗教文化財の運命：ソロフ
キ諸島の例から」

司会：長縄宣博（SRC）

コメンテーター：杉本良男（国立民族学博物館）

3月4日（日）

10:30-12:00 第4セッション 南方表象研究

鳥山祐介（千葉大学）「1790-1800年代のロシアの旅行記に見る『南方ロシア』表象」

Tsyplma Darieva（筑波大学）“Locating transnational sacred places: The Blue mosque
in post-socialist Yerevan” (in English)

司会：中村唯史（山形大学）

コメンテーター：望月哲男（SRC）、Guchnova, Elza-Bail（SRC）

13:00-15:00 第5セッション 実践と表象の男性性／女性性

前田しほ（SRC）「現代ロシア文化におけるマスキュリニティ：不在の父をめぐる」

常田夕美子（大阪大学）「現代インド女性とポストコロニアル状況」

田村 容子（福井大学）「現代中国演劇にみるジェンダーと女性の身体」

司会：小松久恵（SRC）

コメンテーター：井上貴子（大東文化大学）

15:15-17:00 第6班 成果報告

15:15-16:15 最終成果の出版に向けて

望月哲男（SRC）「文化横断力としての思想：ロシアとインドにおける非暴力思想の反響」

16:15-17:00 「インドシンポ報告」前田しほ，望月哲男，（協力：杉本良男，井上貴子）

「中国東北地方調査準備報告」村田雄二郎，前田しほ



● ワークショップ「帝国の遺産としての人間の移動とディアスポラ」開かれる

3月2日にはスラブ研究センターを会場として、新学術領域研究第5班「国家の輪郭と越境」主催の英語によるワークショップ「帝国の遺産としての人間の移動とディアスポラ」を行いました。午前中は、インド洋に広がるハドラマー・ディアスポラの研究で著名なエンセン・ホー教授（デューク大，米国）が“Muslim Diasporas and Western Empires: Precedents to Bin Ladin”と題する講義を行いました。午後は、第5班の研究成果として、小松久恵さんが“To Be or Not to Be? Representations of ‘Homeland’ in Contemporary British Asian Writers”，長縄宣博が“Khakimov of Arabia: Muslim Intermediaries for the Russian Empire and the USSR in the Hedjaz, 1890s-1930s”という報告を行い、討論者のホー先生から大変刺激のかつチャレンジングなコメントをもらいました。今回は、スラブ研究センターの院生や研究員だけでなく、若いイスラーム、南アジア研究者も参加して、議論を盛り立ててくれたので、比較研究が生み出す知的エネルギーの大きさを改めて感じることができました。すべての参加者に御礼申し上げます。これに合わせて2月29日～3月1日に行われたITP英語論文ライティングセミナーには、第5班の支援によって5名の

若手南アジア研究者が参加しました。[長縄]



● **新しいプロジェクト研究員の採用，およびプロジェクト研究員の今年度の勤務地**

2012年1月より，第4班プロジェクト研究員の福田宏さんがスラブ研究センターの助教に就任したこととともなって，第4班プロジェクト研究員の公募が行われました。応募者の中から厳正な審査の結果，高本康子さん〔前職は群馬大学非常勤講師〕が選ばれました。高本さんの研究テーマは近代における日本とチベットの関係史・交流史で，2012年3月1日から2013年3月31日まで，北海道大学スラブ研究センターで勤務される予定です。

なお，今年度のプロジェクト研究員の勤務地は，以下の通りです。

班名	研究者名	専門	勤務地
2班	三輪博樹	インド政治	北海道大学スラブ研究センター
3班	星野真	中国経済・開発経済学	北海道大学スラブ研究センター， 東京大学社会科学研究所， 神戸大学経済経営研究所
4班	高本康子	比較文化論・日本近代史	北海道大学スラブ研究センター
5班	小松久恵	ヒンディー文学・ インド文化論	大阪大学大学院言語文化研究科
6班	前田しほ	ロシア文学	北海道大学スラブ研究センター



● **比較地域大国論集第8号『同盟と国境：地域大国を規定するもの』刊行**

新学術領域研究が発行する研究報告集『比較地域大国論集』の第8号として，デイヴィッド・ウルフ編『同盟と国境：地域大国を規定するもの』が発行されました。本号は，昨年7月にスラブ研究センターで行われた国際シンポジウム“Alliances and Borders in the Making and Unmaking of Regional Powers”の報告要旨（日本語）と，スラブ研究センター共同研究員の鶴見太郎氏（日本学術振興会特別研究員PD）によるシンポジウム全体の報告書が掲載されています。本書は新学術領域研究のウェブサイトからダウンロードできます。[<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/publications/no08/contents.html>]



● 各班研究会情報

第2班

◆研究会

出版予定の書籍の原稿読み合わせ

日時：2012年6月10日（日）10：00～17：00

場所：早稲田大学（会議室は追って連絡します）

第3班

◆研究会

出版予定の書籍の原稿読み合わせ

日時：2012年5月13日（日）9：30～16：30

場所：東京大学社会科学研究所第1会議室

◆国際会議 Economic and Financial System Development in the Pacific-Rim Region で
の基調講演とパネル

主催：比較経済体制学会，米国比較経済体制学会，新興市場学会

日時：2012年5月16日～19日

場所：ホノルル Ala Moana Hotel

Keynote Address

Shinichiro Tabata, Hokkaido University

“Comparison of Russia, China and India in Terms of International Reserve Accumulation”

Session 5: Sustainable Growth in the Pacific Rim Region

Chair: **Shinichiro Tabata**, Hokkaido University

Masaaki Kuboniwa, Hitotsubashi University

“A Comparative Analysis of the Impact of Oil Prices on Oil-Rich Emerging Economies in the Pacific Rim”

Iikka Korhonen, Bank of Finland and Maria Ritola, Demos Finland

“Forecasting Economic Developments in Major Emerging Markets – Rational?”

Akira Uegaki, Seinan Gakuin University

“Development in Global Economy: Middle Term Analysis of China, India, and Russia”

Yugo Konno, Mizuho Research Institute Ltd

“Comparison of Trade Liberalizations in Russia, China and India”

◆比較経済体制学会全国大会でのパネル

日時：6月3日（日）13：00～14：45

場所：帝京大学八王子キャンパス 17号館 1731教室

第2パネル：「地域大国（ロシア・中国・インド）の持続的経済発展の可能性」

司会：丸川知雄（東京大学）

星野真（北海道大学）

「ロシア・中国・インドにおける人口と産業の集積と地域経済格差」

堀井伸浩（九州大学）

「中国とインドの石炭問題：エネルギー安全保障と経済性、環境問題への対応」

金野雄五（みずほ総合研究所）

「ロシア・中国・インドの貿易自由化政策の比較」

討論者：加藤弘之（神戸大学）、酒井正三郎（中央大学）

（詳細は、同学会サイト<http://www.jaces.info/taikai52.html>）

第5班

◆研究会「国家の輪郭と越境」

日時：2012年7月9日（月）13：00～17：00（変更の可能性あり）

場所：大学コンソーシアム大阪 [<http://www.consortium-osaka.gr.jp/about/access.html>]

連絡先：長縄宣博 luch@slav.hokudai.ac.jp

第6班

◆拡大班会議

日時：7月7日（土）9：30～11：50

場所：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室（401号室）

発行者：田畑伸一郎（領域代表者）

事務局：越野剛，後藤正憲，阿部僚子

電話 011 - 706 - 4809

ファクス 011 - 706 - 4952

メール rp@slav.hokudai.ac.jp

H P <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目
北海道大学スラブ研究センター